

## 古墳の町青堀を歩く

永年にわたって山歩きを続けてきたが、膝を痛めた為まともな山への登山は難しくなってしまった。それでも「山」からは離れることができず、登山中のメモを元に登山記録を書いて見たりしながら、新たなテーマ探しを続けてきた。その結果、「各都道府県で一番低い山」の登山をして見ようと言う、つまらないことを思い付いた。三省堂で出している「日本山名事典」を眺めている内に「低い山」というセクションでデータを発見したのがきっかけで、東京都・大阪府・神奈川県「一番低い山」を歩いて見た。

千葉県で一番低い山としては、「稲荷山（海拔 16m）」が紹介されていた。稲荷山はどこにあるのだろうかを



拡大図



調べた結果、富津市の平野部にある「稲荷山古墳」であることがわかった。国土地理院の 1 : 25,000 地形図等を使用してこの山の存在を確認した。（左上地図の左下端）

内房線青堀駅から富津岬方面へ 1.5Km ほど進み、さらに 500m ほど南へ進んだところとあり、駅から歩いて行ける範囲のようだ。かすかにうかがえる等高線は前方後円墳を感じさせる曲線になっている。イメージを膨らませながら地図に見入っている内にさらに興味深い事実が見えてきた。

青堀駅から半径 2Km 位のエリアを丹念に眺めて見ると、地名に特徴があることがわかった。

二間塚・三條塚・九條塚・大里塚・内裏塚・笹塚・・・、「塚」と言う字を含む地名が沢山ある。これは古墳が沢山あることを示しているのではないか。二間塚の南側にある堀割に囲まれた御屋敷跡という表記も気になる。古井戸・堰端は井戸と水路の存在を示すものだろうか。百目木（どうめき）は、百目鬼が語源ではないだろうか？ などなど想像が膨らむ。

### その① 稲荷山

7月の晴れた暑い日、袖ヶ浦の友人に会う予定と合わせて出かけてみることにした。本来の目的は稲荷山登山ではあるが、複数の古墳を見回る可能性もあるので車を利用する方が得策と判断した。

千葉北 IC から宮野木 JCT に入り京葉道路・館山自動車道へ。木更津南 IC で一般道に下りて国道 16 号線を南へ。青堀駅前を通り抜けてしばらく進むと富津市青木、稲荷山のある集落になる。国道を左折するとくねくねとした狭い道路が家々の間を縫うようになり、家並みが途絶える頃には水田が現れ始めた。パソコンで印刷した地図とカーナビゲーションの画面とを見ながら注意深く進むと浄信寺という大きなお寺の入り口が



現れた。墓参用の駐車場に車を停めさせていただき、間近に迫った稲荷山探しは地図と磁石と足で。

集落のはずれに新しい家が数軒並び、その向こうに水田と鬱蒼と茂った小山が現れた。おそらくこれに違いないだろうと歩を進めると「稲荷山古墳」と書いた小さな看板が建っていた。墳丘長 106m、後円部の径 47

m、高さは円部 6m・方形部 6.6m、6 世紀後半の古墳としては東日本最大の物であると記してあった。（上の写真：稲荷山北西から 下の写真：同 南西から）

幅 50cm にも満たない水路に囲まれた小山は水田に囲まれている上に、山の端は藪に覆われている。前方後円墳の全貌を知るべく歩ける道を探して外周をひとまわりして見たが、古墳の中に導かれる道は何ひとつ見当たらなかった。薄雲に覆われた空と時折落ちて来る



霧雨、そしてその後の蒸し暑さの中、稲荷山登山は諦めることになったが、何だかいいものを見つけたような気分になった。

## その② 御屋敷跡・三條塚

次は地図を見ていて気になった「御屋敷跡」。

稲荷山から東北東へ 1.5Km ほどの場所ではあるが、不規則に走る集落の道に邪魔されてまっすぐには進めない。集落が途切れたところで道路の右端に放置された荒地を思わせるような緑地が突然現れた。

(右上の写真)

かすかに堀割が切られている様子うかがえる。大きく東側に回りこむと入り口の表示が見つかった。表示の石柱と看板には「飯野陣屋濠跡」と書いてあり、その横に「飯野神社」という石柱も建っている。

1648年(慶安元年)に家康の家臣だった保科弾正忠正貞が1万7千石を領してこの地を居所とした。江戸時代には城を持つことを許されなかった小藩主の居所を陣屋と言ったらしい。周囲に土塁・堀割(薬研堀)を巡ら

せ、本丸・二の丸・三の丸を備えた城を感じさせる立派な作りで、総面積13万㎡。日本三大陣屋に数えられるとのことである。(上の写真)

桜並木の参道の両脇には民家が立ち並び、その奥に飯野神社がある。神社の右手を大きく回り込むと鬱蒼とした林の小山が控えていた。足元の看板には三條塚(前方後円墳)と書いてあったが、中は藪だった。(左の写真)



## その③ 内裏塚

御屋敷跡から県道に出て北(青堀駅方面)へ進むと、右手にこんもりとしたやや大きめの山が現れる。

付近は地元企業のオフィスや住宅地が並ぶ所で、「集落の外れにある小山」というイメージである。

道路の脇に「内裏塚」の表示と説明の看板があった。5世紀中頃に築造されたものと書いてある。前方後円墳で墳丘長144m、前方部幅90m、後円部径80m、千葉県下(南関東)では最大の古墳らしい。埋葬されていたのは、5世紀頃に小糸川流域一帯を占めていた首長らしい。

周溝が走っているが、所々が沼や湿原の状態になっている。国土地理院の地形図によれば海拔20.2mの三角点があることになっている。この古墳は頂上に向かう道がきれいに付けられているので、路上駐車して「登山」してみたことにした。(右上写真)

灼熱の太陽のアスファルトから解放されて樹林の中に入ると別天地のような感じがする。ゆるやかに登って行くと前方と後円の鞍部と思われる場所に着いたが、三角点がある筈の前方の起伏は藪の中で切り開きも踏み跡もない。道に導かれて後円の頂上に登りつめると、「内裏塚」と書いた立派な石碑が鎮座していた。頂の反対側からも一筋の道が上がってきており、細い道の先に里の水田の輝きが見えた。

(右下写真:内裏塚石碑)

友人と昼食の約束があるため、本日の散策はここまでとして下山。と言うよりも一日中歩くにはかなり勇気が要るような暑さだった。

## その④ 上野塚

顔を洗って冷たいものを飲みたいと思い、青堀駅に立ち寄ってトイレを借用。自動販売機の清涼飲料水で喉を潤してひと休みしながら最後の古墳巡り。駅前広場の端に「上野塚」という古墳がある筈。駅前広場を挟んで駅舎と対面になる場所に緑の小山があった。円墳の半分は削り取られて駅前広場になっていた。削り取られた斜面に付けたコンクリートの壁に「古墳の町青堀」というタイトルでそれぞれの古墳の説明が書いてあった。(右写真)

何気なく通り過ぎていた内房の小さな町に、こんな宝物があったとは知らなかった。有意義な小旅行ができてよかった。飲み残した清涼飲料水を飲みながら国道16号線を北上し、次の目的地である袖ヶ浦市に向かった。

